

『ねざす』

—教育の実践を共にする思いをひそめて、地中に根ざす—

金澤信之（一財）神奈川県高等学校教育会館教育研究所 特別研究員）

一財）神奈川県高等学校教育会館教育研究所（以下、教育研究所）は1986年7月に開所しました。そもそも、1980年に神奈川県高等学校教職員組合の中央委員会において「高校教育資料センター」を神奈川県高等学校教育会館（以下、教育会館）に設置し、会館事業の一部に位置付けるという構想が決定されたことから始まります。この「高校教育資料センター」は、後に「県民図書室」と名称を変えました。

その後、教育会館は財団法人格を取得し、その寄付行為第5条2項「教育に関する研究ならびに啓蒙活動の実施に関すること」から、会館の事業として教育研究組織づくりをめざすこととなります。そして、1986年5月に教育会館理事会で教育研究所の設立が承認されました。

以上のように、教育研究所は県民図書室事業の一環として誕生し、組合から独立した研究組織であることを特徴としています。

現在は、設置規定第2条「研究所はあらゆる人々の教育を受ける権利を充実発展させていく立場から、高等学校教育を中心とした教育の理論的並びに実践的研究を行うことを目的とする」活動を続けています。教育研究所員は高校の教職員、大学教員、子ども・若者支援のNPO関係者等により構成されています。また、開所以来、所長制ではなく代表制を採用していますが、これはこれらのメンバーが対等な立場で研究し、発言をすることを重視するためです。



（県民図書室の様子）

出版物は、年2回発行の所誌『ねざす』と同じく年2回発行の教育研究所ニュース「ねざす」があります。前者は、高校現場の様々な課題の特集を始めとして、教員、研究者、学生、市民の方などに執筆をお願いしています。概ね80ページ前後の

冊子になります。後者は、その時々話題になっている問題等に焦点を当てた論文を掲載します。4頁で手軽に読めるようになっています。どちらも教育研究所のホームページ（下記のQRコード）からダウンロードが可能です。また、ご連絡をいただければ、お送りすることもできます。

毎年7月に公開研究会、11月に教育討論会を開催しています。どちらも、どなたでも参加可能です。2021年のテーマは、公開研究会が「コロナ下での生徒への支援は？—チームとしての学校、ケアと保護の役割、課題と可能性—」、教育討論会が「中教審答申・令和の日本型学校教育—ディストピアを超えて—」でした。

これからも、教育を考えるために必要なものについて従来の枠組みにこだわることなく、多岐にわたり、新たな視点を模索していきたいと考えています。

一財）神奈川県高等学校教育会館教育研究所

〒220 - 8566

神奈川県横浜市西区

藤棚町2 - 197

電話 045-251-2546

E-mail（半角）

Gae02106@nifty.ne.jp

